

科目名	健康回復を支える看護Ⅰ	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	病気を診る演習では病態学で学んだ知識を基に、病気がもたらす身体機能の変化が生活にどのように影響するかを学んだ。 この科目では、解剖生理学と病態学、病気を診る演習の知識を土台に、患者の症状から訴えから情報を得て気づき、判断して、行動する力を養うシミュレーションの学習を行う。知識を記憶する学習にとどまらず、知識を使って行動し、対象の健康回復と生活の自立への看護を想像する力を身につけることがねらいである。 シミュレーション学習は、実際の状況の再現性が高く、現実的な実践さながらに思考し、気づき、判断し、行動することを体験的に学ぶことができる。一連の思考過程や体験は、振り返り再現して課題に気づくことができる。技術やケアのような反復学習ではなく、能動的に創造的に行動することが求められる。		
授業形態	学内実習、グループワーク		
学習目標	1. フィジカルアセスメントの知識を活用して全身状態を観察し、場面の事例の目標に沿った計画を立てることができる。 2. 病気の経過別に起こる症状や反応に気づき、何が起こっているのか判断して行動することができる。 3. 事例ごとのリフレクションを行い通して、気づき・判断・行動計画の考察を通して、自己の課題を見出すことができる。		
授業計画	1回目（45分） ガイダンス 2回目 シミュレーション演習：感覚機能変化のある対象の観察と対処（老化） 事前学習：高齢者の身体的特徴 難聴・前立腺肥大の病態、観察 3回目 シミュレーション演習：腹痛のある対象の観察と対処（弛緩性便秘） 事前学習：便秘の病態、観察 4回目 シミュレーション演習：浮腫のある対象の観察と対処（心不全） 事前学習：心不全の病態、浮腫の病態、観察 5回目 実践確認（OSCE）		
使用テキスト	系統看護学講座成人看護学 循環器 第15版 吉田俊子他著 医学書院 系統看護学講座成人看護学 消化器 第15版 南川雅子他著 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第10版 北川公子著 医学書院 看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント 第5版 高木永子監修 Gakken		
事前・事後学修	各講義とも、疾患の事前学修および事後学修としてリフレクションシートまとめ		

評価基準および評価方法	2回目～4回目の演習での事前学習・実施内容・リフレクションと5回目の実践確認をルーブリックを評価する。
備考	学内実習は実習室で行う。身だしなみを整えて入室してください。